

(地Ⅲ247F)

平成 28 年 2 月 26 日

都道府県医師会
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
小 森 貴

ジカウイルス感染症患者の発生について

今般、ブラジルへの滞在歴がある下記男性 1 名が発疹等の症状を示し、2 月 24 日に神奈川県内の医療機関を受診し、当該医療機関からジカウイルス感染症の疑い事例として届け出がありました。

これを受け、昨日、地方衛生研究所および国立感染症研究所において PCR 検査を実施した結果、ジカウイルス感染症の陽性が確定し、添付のとおりプレスリリースされました。

わが国におけるジカウイルス感染症患者の発生としては本事例が 4 症例目（すべて輸入症例）となりますが、今回の中南米におけるジカウイルス感染症流行後としては初めての発生となります。

なお、患者は自宅療養中で、発疹等の症状が認められるものの既に解熱し、状態は安定しているとのことです。

また、厚生労働省より、①現在、国内は蚊の活動期ではないため、国内で感染が拡大するリスクは極めて低くなっていること、②ジカウイルス感染症は一般的に軽症であり、重症化するリスクは極めて低いこと、③流行地域へ渡航する場合は、長袖・長ズボンを着用するなどして虫よけスプレー等を使用し注意すること、③特に妊婦は流行地域への渡航は控えること等が、合わせて示されています。

貴職におかれましては、本件について貴会管下郡市区医師会および会員に周知いただきたく、ご高配のほどよろしくお願いいたします。

記

【患者に関する情報】

- ①年代：10 代
- ②性別：男性
- ③滞在国：ブラジル（2 月 9 日～2 月 20 日）



- ④症状：2月20日に発熱、2月22日に発疹出現
- ⑤蚊の刺咬歴：不明
- ⑥居住都道府県：神奈川県

以上

平成28年2月25日

【照会先】

厚生労働省健康局結核感染症課

課長 浅沼 一成(内線 2370)

課長補佐 中谷祐貴子(内線 2373)

(代表番号) 03(5253)1111

報道関係者 各位

ジカウイルス感染症患者の発生について

神奈川県内において、ブラジルへの滞在歴がある男性1名が発疹等の症状を示し、2月24日に県内の医療機関を受診しました。ジカウイルス感染症の疑い事例として医療機関から自治体に届け出があり、本日、国立感染症研究所における検査の結果、ジカウイルス感染症の陽性が確定しました。

我が国でジカウイルス感染症患者が発生したのは4例目(全て輸入症例)であり、今回の中南米におけるジカウイルス感染症流行後としては初めての発生になります。

この患者に関する情報等は、以下のとおりです。

○ 患者に関する情報

(1) 概要

- ① 年代： 10代
- ② 性別： 男性
- ③ 滞在国： ブラジル（2月9日～2月20日）
- ④ 症状： 2月20日に発熱、2月22日に発疹出現。
- ⑤ 蚊の刺咬歴： 不明
- ⑥ 居住都道府県： 神奈川県

(2) 患者の状況

現在、患者は自宅療養中。発疹等の症状が認められるものの、既に解熱して、状態は安定しています。

国民の皆様へのメッセージ

ジカウイルス感染症は、一般に蚊に刺されることによって感染する疾患です。現在、国内は蚊の活動期ではないため、国内で感染が拡大するリスクは極めて低くなっています。

ジカウイルス感染症は一般的に軽症であり、重症化するリスクは極めて低いですが、流行地域へ渡航する場合は、長袖・長ズボンを着用したり、蚊の忌避剤（虫よけスプレー等）を使用したりして、蚊に刺されないように注意してください。特に、妊婦の方は、流行地域への渡航は控えてください。また、性交渉による感染リスクも指摘されており、流行地域から帰国した男性で、妊娠中のパートナーがいる場合は、帰国後2週間程度は、症状の有無にかかわらず、性行為の際にコンドームを使用してください。